



●母子健康手帳の交付

保健師が、妊婦さんの体調などを聞きながら母子健康手帳の使い方や妊婦健康診査について説明を行います。交付場所は＜西合志庁舎＞健康づくり推進課です。また、健康育児相談時も交付しています。11月11日(水) 泉ヶ丘市民センター、11月17日(火) ふれあい館です。日程は健康づくり事業計画表に掲載していますので、ご参照の上お越しください。印かんと産婦人科から妊娠届出書もらい、持参してください。

●熊本県小児救急電話相談事業

相談時間

毎日・夜間
午後7時～午前0時

☎8000

(ただし、ダイヤル回線・IP電話・光電話からは☎364-9999)

訂正とお知らせ

広報こうし10月号で子宮がん検診についてお知らせしましたが、一部訂正がありました。池田クリニックは予約不要としていましたが、予約が必要です。検診受付日時は月・火・木・金曜日の午前9時～正午と午後2時30分～5時です。

問い合わせ先

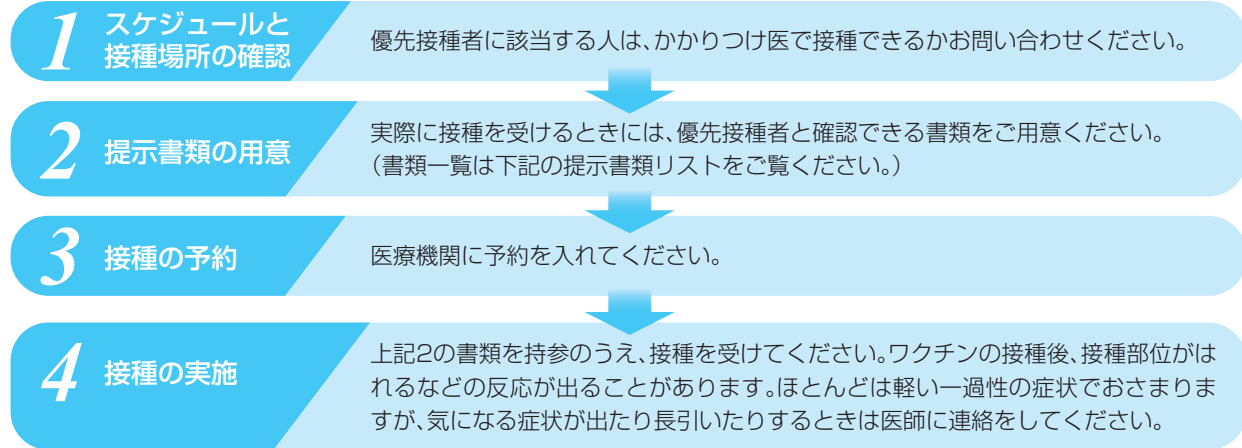
健康づくり推進課 健康推進班(西合志庁舎)
☎242-1183

健康のすゝめ



問い合わせ先
健康づくり推進課 健康推進班(西合志庁舎) ☎242-1183

ワクチン接種の申込受付と接種開始予定



提示書類リスト

- ①妊婦……………「母子健康手帳」
- ②基礎疾患を有する人……………「優先接種対象者証明書」(かかりつけ医で発行を受けてください。)
※かかりつけ医で接種する場合は必要ありません。
- ③1歳から小学校3年生……………「母子健康手帳」、「各種健康保険被保険者証」などの年齢が確認できるもの
- ④1歳未満児の保護者など……………「母子健康手帳」、「各種健康保険被保険者証」または「住民票」
- ⑤小学校4～6年生……………「各種健康保険被保険者証」、または「住民票」などの年齢が確認できるもの
- ⑥中学生、高校生、65歳以上……………「各種健康保険被保険者証」、「学生証」、「運転免許証」または「住民票」などの年齢が確認できるもの

接種場所

国とワクチン接種の契約をした内科、小児科、産婦人科などの医療機関で受けられます。まずは、**かかりつけ医で実施できるかお問い合わせください**。かかりつけ医が未実施の場合は、次の医療機関で接種することができます。事前に予約が必要です。



かかりつけ以外の人でも接種できる合志市内および公立の医療機関(熊本市や近隣の医療機関でも接種することができます。)

受託医療機関名	所在地(住所)	電話番号
三隅胃腸科内外科医院	豊岡2000-596	248-6161
温耳鼻咽喉科医院	幾久富1909-547	248-6188
緒方整形外科医院	幾久富1758-690	248-8181
須屋クリニック	須屋1205	344-4833
庄嶋医院	合生4095-1	242-3388
産婦人科大竹クリニック	須屋680-1	344-3232
公立菊池養生園診療所	菊池市泗水町吉富2193-1	0968-38-2820

接種費用

接種費用は、全国一律です。今回、市では予防接種費用の一部を次のとおり助成しますので、手続きに必要な書類は保管しておいてください。手続きについては広報こうし12月号でお知らせする予定です。(できるだけ申請の必要がないように、市内および近隣の医療機関と費用支払いについての契約を準備中です。)

回数	費用	個人負担金	助成額	手続きに必要な書類
1回目	3,600円	1,000円	2,600円	①新型インフルエンザ予防接種済証 ②領収書(新型インフルエンザワクチン接種と分かるもの)
2回目	2,550円	1,000円	1,550円	

新型インフルエンザワクチンの優先接種が始まります

～知っておきたいこと、ご理解いただきたいこと～

新型インフルエンザワクチンは、**重症化などの防止に有効な手段のひとつ**です。健康被害を減らすことに有効であると期待されています。ただし、万能の解決策ではありません。また、その生産量は世界的に見ても限界があり、限られた医療資源です。そのワクチンの活用について、ぜひ知っていただきたいこと、ご理解いただきたいことをお知らせします。

新型インフルエンザの特徴

感染力は強いのですが、多くの感染者は軽症のまま回復しており、治療薬(タミフル・リレンザ)が有効です。ただし、基礎疾患(糖尿病、ぜん息など)がある人や妊婦は重症化する可能性があります。注意が必要です。

新型インフルエンザワクチン接種の意義

今回の新型インフルエンザワクチンはこれまでのデータから、重症化や死亡の防止に一定の効果が期待されます。ただし、**感染防止の効果は証明されておらず、接種したからといって、かからないわけではありません。**

新型インフルエンザワクチンの有効性・安全性

国内産のワクチンの安全性は、長年接種されてきた季節性インフルエンザワクチンと同程度と考えられ、有効性もある程度期待されます。輸入ワクチンに関しては、海外で承認されていることを前提として、さまざまなデータをもとに国が有効性・安全性を確認してから実際の接種を始めます。

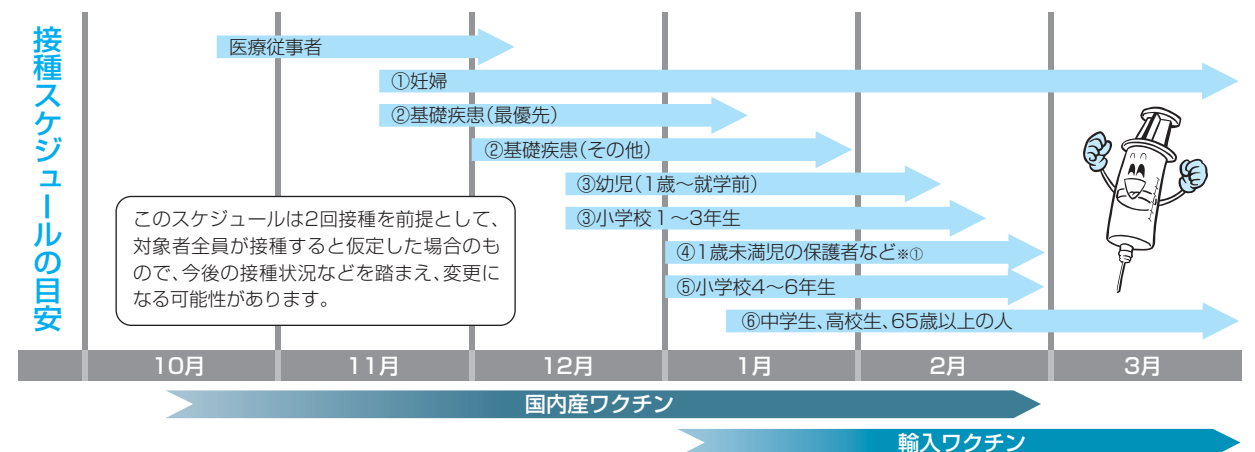
新型インフルエンザワクチンの予防接種は本人の希望による任意の接種です。

ワクチン接種にあたっては効果とリスクを考慮してください

ワクチン接種は多くの人に重症化予防というメリットをもたらしますが、接種後、はれたり、熱が出るなどの症状が見られたりするほか、まれに**重篤な症状**を引き起こす可

能性もあります。リスクを100%は排除できません。この点をご理解いただいたうえで、個人の選択で接種を受けるようお願いします。

優先接種者と接種のスケジュール



※① 1歳未満児の保護者以外に、優先接種対象者本人が身体上の理由で予防接種できない場合、その保護者が接種の対象になります。

○16歳未満の人は原則、保護者の同伴が必要です。

○基礎疾患とは、「慢性呼吸器疾患、慢性心疾患、慢性腎疾患、慢性肝疾患、神経疾患・神経筋疾患、血液疾患、糖尿病、疾患や治療に伴う免疫抑制状態、小児科領域の慢性疾患を有しており治療経過や管理の状況などを勘案して医師により重症化のリスクが高いと判断される人など」とされています。詳しくは、かかりつけ医にご確認ください。

○「基礎疾患(最優先)」とは、とくに重症化リスクが高い人として一定の基準に該当すると医師が判断した人です。

○優先接種者以外の人に対する接種については、今後の状況に応じて決定されます。